

2021年11月16日(火)
国際芸術祭「あいち」組織委員会

**国際芸術祭「あいち2022」ラーニング・プログラム
愛知と世界を知るためのリサーチ
他者と見る風景から愛知を捉えなおすプロジェクト
『穴あきの風景』の参加者を募集します。**

国際芸術祭「あいち2022」では、幅広い層を対象とした様々なラーニング・プログラムを順次、実施します。

ラーニングの参加プログラム「愛知と世界を知るためのリサーチ」は、愛知にまつわる様々な事柄をテーマに取り上げ、我々が現在立っている場所について明らかにしながら、「世界とは何か」という謎に迫るリサーチをベースにしたプログラムです。

このプログラムでは、アーティスト等がリサーチリーダーとなり、公募による参加者たちとフィールドワークなどの活動を通して、様々な視点から愛知を発見するプロジェクトを実施します。

このたび、アーティストの徳重道朗^{とくしげみちろう}をリサーチリーダーとした『穴あきの風景』を始動します。愛知に暮らす在留外国人との交流を通して愛知の風景を捉えなおすプロジェクトです。下記のとおり参加者を募集しますのでお知らせします。

1 『穴あきの風景』について

リサーチリーダー 徳重道朗（アーティスト）

アーティストの徳重道朗は、「風景」をモチーフとしたサイト・スペシフィックなインスタレーションを制作してきました。本プロジェクトにおいても、私たちのアイデンティティの指標の一つと言える「風景」に着目し、愛知に暮らす在留外国人のコミュニティにアプローチすることで、私たちが住まう地域として捉えてきた「風景」を問い直すプロジェクトを始動します。

2 参加者募集について

リサーチリーダー・徳重道朗と共に毎月1回程度のフィールドワークに参加し、「あいち2022」での発表に向けた制作や期間中のイベントなどにも継続して関わっていただける方を募集します。参加者の皆様と共に考え、相談しながらプロジェクトを進めていきます。詳細はキックオフ・ミーティングでお伝えします。

(1) 定員 10名（要申込）定員を超えた場合は選考を行います。

(2) 活動日 2021年：12月12日（日）

2022年：1月9日（日）、2月6日（日）、3月6日（日）、
4月10日（日）、5月15日（日）、6月5日（日）

※ 各日の集合場所、活動内容は、随時お知らせします。

※ 2022年7月以降の予定は、確定次第お伝えします。

(3) 参加条件など

- ・本プロジェクトの参加の際（個人のリサーチ含む）に発生する交通費、食費、施設入場料等諸経費は各自でご負担ください。
- ・活動中の様子を写真と動画によって記録します。記録した写真や動画はご本人の同意のもと、国際芸術祭「あいち2022」の広報物や報告書等で使用する場合があります。
- ・活動にあたっては、参加者を被保険者とした団体傷害保険に、国際芸術祭「あいち」組織委員会において加入します。

(4) キックオフ・ミーティング

キックオフ・ミーティングでは、リサーチリーダーである徳重道朗のこれまでの作品紹介と、今回のリサーチプロジェクト「穴あきの風景」についての説明を行います。その後、参加者の皆様と、今後のリサーチ先やプロジェクトの進め方について相談します。

日時：12月12日（日） 午後4時30分から午後6時30分まで

会場：アートラボあいち

（名古屋市中区丸の内三丁目4-13 愛知県庁大津橋分室2～3階）

3 申込方法

国際芸術祭「あいち2022」公式ウェブサイト 「ラーニング」 ページ

（<https://aichitriennale.jp/learning/index.html>）よりお申し込みください

申込み締切：2021年12月7日（火）正午

※ 参加の可否は、12月9日（木）にメールでご連絡します。

4 問合せ先

国際芸術祭「あいち」組織委員会事務局

（愛知県県民文化局文化芸術課国際芸術祭推進室内）

住所 〒461-8525 名古屋市東区東桜一丁目13-2 愛知芸術文化センター内

電話 052-971-3111 FAX：052-971-6115

URL <https://aichitriennale.jp/>

リサーチリーダー・プロフィール

徳重道朗 Tokushige Michiro

愛知県在住。風景をモチーフとしたサイト・スペシフィックなインスタレーションを制作。かつては模型を組み立てるために、こけしやアイヌ人形を彫り下げていたが、近年は実際の風景を掘り下げることを試みている。

近年の主な展覧会に、個展「ゆきゆきて神戸」兵庫県立美術館アトリエ1（2020年、兵庫）、グループ展に、「パラランドスケープ“風景”をめぐる想像力の現在」三重県立美術館（2019年）、あいちトリエンナーレ地域展開事業「Windshield Time—わたしのフロントガラスから 現代美術 in 豊田」豊田駅周辺の様々な施設（2019年、愛知）、Assemblebridge NAGOYA 2016「パノラマ庭園—動的生態系にするすー」ポットラックビル及び名古屋港一築地口界限（2016年、愛知）、「Diamonds Always Come in Small Packages」Kunst Museum Luzern（2015年、スイス）などがある。



《すみにおける男》2007



《対岸の風景》(部分)
「パラランドスケープ“風景”をめぐる
想像力の現在」2019、三重県立美術館



「ゆきゆきて神戸」2020、兵庫県立美術館アトリエ1

リサーチリーダー・メッセージ

風景という観点から、愛知を捉え直す機会とします。例えば愛知に暮らす外国人にとって愛知の風景とはどのようなものか。或いは愛知の風景においてどのような文化を育んでいるか。本プロジェクトにおいては、ミャンマー人はじめ在留外国人の方々との交流を通して、様々なもののやりかたを学び、風景の新たな活用法を考察したいと思っています。

風景とは、私たちの日常において様々な役割を担っています。まずわたしたちが住まう地域の風景は、アイデンティティを保証するものであり、それゆえに同じ地域に住むもの同士の連帯感を高めてくれるものでもあるでしょう。また、私たちにとっていくつかの愛知の風景は日常ですが、そのような風景でも、誰かと一緒に見ればまた少し違って見えることでしょう。私たちはいたるところでそれぞれに風景を介したコミュニケーションを行い、想像力を刺激しながら、あたかも集合知のように愛知の風景を育んでいるのかもしれませんが。しかしながら、その風景には穴が空いているのかもしれませんが。同じ地域に住まいながらも私たちの文化や社会から抑圧されているか疎外されている、例えば在留外国人たちなどの存在によって…。彼らにとっては愛知の風景とは他者の風景であるにも関わらず、あるいはそれゆえに、その中でなんとかやっていくために様々なもののやりかたを編み出しているのかもしれませんが。コミュニティのネットワーク、異なる外国人同士の連帯の仕方、相互扶助の在りよう、生活の知恵など。それらのもののやりかたを学ぶと風景もまた違った捉え方ができるのかもしれませんが。

【参考】

「あいち 2022」ラーニング・プログラムについて

○参加プログラム

一般を対象とした公開プログラム

- ・アーティストによる美術史講座
- ・「芸術祭」をひも解く：近代化と万博-オリンピック-芸術祭
- ・愛知と世界を知るためのリサーチ 他

○スクール・プログラム

学校関係者（児童生徒・教員等）を対象としたプログラム

○ボランティア・プログラム

対話型鑑賞のファシリテーターや会場案内などのボランティア育成のためのプログラム

「愛知と世界を知るためのリサーチ」とは

ラーニングの参加プログラム「愛知と世界を知るためのリサーチ」は、芸術祭の開催地である愛知という土地にまつわる様々な事柄をテーマに取り上げ、我々が現在立っている場所について明らかにしながら、「世界とは何か」という謎に迫るリサーチをベースとしたプログラムです。

その一つ①『監督と学ぶ』は、「あいち 2022」の監督・片岡真実が、今回の開催会場となる地域を中心に、専門家や地域の方々をゲストに迎え、対談形式で歴史・文化・産業などを学んでいくシリーズで、動画を公開していきます。

二つ目以降は、アーティスト等がリーダーとなって、様々な視点で愛知を発見していくプロジェクトを実施します。リサーチリーダーと公募による参加者たちが、フィールドワーク、ワークショップ等、グループごとのテーマに沿って自由な形式で活動を展開し、「あいち 2022」の開催期間中にその成果を発表します。

詳しくは各プロジェクトのページをご確認ください。